

スタートカリキュラム

スタートカリキュラムは、小学校へ入学した子どもが、これまでの生活における育ち（幼児期の教育及び家庭）を基礎にして、その力を発揮しながら新しい学校生活に適切に移行していくためのカリキュラムです。

カリキュラムは目的に基づいて学校ごとに定めることができます。

安心	○学校生活に慣れていく。出会いのうれしさや学校の楽しさを感じる。 ○小1プロブレムを予防する。
成長	○子どもが自分らしさを発揮し、学びと育ちが確かなものとなる。 ○幼児教育→小学校教育の連続性・一貫性をつくる。
自立	○「学習上の自立」「生活上の自立」「精神的な自立」が養われる。 ○主体的に学ぶ子を育む。

上記はスタートカリキュラムの視点です。そして、生活科を中心として、他教科等を合科的・関連的に扱い、単元を構成します。例えば、「国語・音楽・学級活動」で「読み聞かせ」や「手遊び歌やみんなで歌う」、「仲間づくりゲーム」をする時間をつくります。カリキュラム・マネジメントの視点から検討することが大切です。

ここが
ポイント

生活科の学びを生かす展開例

学校を「探検」したことを生かすカリキュラムを作ることができます。例えば、「生活・国語・学級活動」として、子どもが探検中に給食室の様子を見ます。調理員さんに対し絵や文字で思いをかかせてから、給食時間の指導で正しい給食の食べ方を学ぶ時間をつくると、学びが連続していきます。

入学した子どもは、座学を連続させないようにし、体を動かしたり場所を移動したりする学習を間に挟むようにして、意欲や集中を持続できるようにします。

学校探検では、教室で学習する上級生の姿を見たり、上級生のきれいな歌声を聞いたりすることで憧れます。また、職員室などを探検する時は、挨拶の仕方や話し方を学べます。

ここが
ポイント

育ちを生かし、自立へ

幼稚園の時から話したり、聞いたりする経験が豊富な子どももいます。話したり、聞いたりする活動を取り入れて、そうした子の育ちを生かしましょう。

勿論、あまり経験のない子どもも多くいることが考えられます。その場合、教師と一緒に、子ども同士で挨拶や会話をするようにすることで、自信がもてるよう関わります。

Active

抵抗なく活動するために、学校探検に行く前に教室で挨拶や会話の練習を取り入れましょう。「お名前を教えてください?」「好きなことは何ですか?」など、この時期に相応しい簡単な質問を通して会話を試みることが出来ます。楽しみながら話す・聞く力を付けていきます。

また、上級生と遊ぶ(6年生が1年生の世話をする)異学年交流をしたり、2年生が1年生と学校探検をしたりする学校もあるでしょう。いつまでも上級生の案内だけでは、自主性の向上は期待できません。自分で学校探検に行きたい場所や目的を選べると自立への一歩となります。

気付き!

ここでいう「気付き」は教科の学習につなげることができる探検中の子どもの気付きを紹介します。

- ものを見付けたり、不思議だと感じたりする子ども
→カードに絵や文字で表現する。国語や図工の学習へとつなげる。
- 見付けたもの(理科室の器具や音楽室の楽器など)の数や種類に着目した子ども
→数えたり、仲間分けしたりする活動をする。算数へとつなげる。
- 学校探検で先生や上級生とふれ合う子ども
→握手したり会話(聞き取り)したりする学校探検をすることで話し方や聞き方の練習をする。国語の学習へとつなげる。